



平成18年11月8日 第36回吉水流詠唱三河大会
岡崎勤労福祉会館で成果発表をする普仙寺吉水講員

第36回吉水流詠唱三河大会

去る11月8日、第36回詠唱三河大会に参加し、「かぐ山の御詠歌」をお舞をつけて発表しました。

舞

岡田さとえ、谷山八千代、加藤桂子

永題

小林みち子

お唱え

谷山 好江、鈴木 扶身、神山 和子、岡田 里見、岡田 命恵、
鈴木 とめ、白井 勝子、黒柳 花子、西郷 嘉寿美、鈴木 好江、
牧野 せい子、牧野 まつゑ、西郷 信代、加藤 良子、谷山 きく、
神山 盛二、岡田 チエコ、藤田 みち枝、杉本 かつ、杉本 幸子、
加藤 良光

(敬称略)

800年前の法然上人

今から800年前、建永元年（西暦1206年・4月27日改元）の12月、法然上人の周辺ではどのようなことがあったのでしょうか。

浄土宗の三代法難と呼ばれる迫害のひとつ、建永の法難の発端となるできごとがありました。

12月9日、後鳥羽上皇（この時27歳）は紀州熊野山のお参りに出発なされました。そのころ、法然上人の弟子、住蓮（じゅうれん）と安楽（あんらく）のふたりは、東山鹿が谷（しがたに）の地で別時念仏（べつじねんぶつ）を始め、六時礼讃（ろくじらいさん）を勤めました。

別時念仏とは、一定の日時を定め、威儀を正して念仏する行です。

六時礼讃とは、昼夜六時に、仏の徳を賛嘆する行で中国善導大師の往生礼讃によって行われます。

その礼讃を唱えること、尊く有難かったので、多くの人がお参りに集ってきました。その中に、御所のお留守番の女官が出家するという事がありました。

後鳥羽上皇は熊野から帰りそのことを聞き、おおいにお怒りになられました。

そして、翌2月9日、上皇は住蓮と安楽を呼び出し、死罪を命じられました。

しかも、なおお怒りは治まらず、弟子の罪は師匠にも及ぶべきとして、2月28日付けで、法然上人の還俗と土佐の国への流罪が命令されたのです。

四誓偈（しせいげ）

「四誓偈」は浄土三部経のうち『無量寿経（むりょうじゅきょう）』の中にある偈文です。

阿弥陀仏の前生を法蔵菩薩といいます。法蔵菩薩は世自在王佛の御前で48の願を立てられ、これらをまとめ、4つの誓いを立てられました。

浄土宗ではこの文を「四誓偈」と呼んで、日々拝読させて頂いています。

一行ずつ紹介します。

為衆開法蔵（いしゅかいほうぞう）

読み 衆のために法蔵を開きて（しゅのためにほうぞうをひらきて）

意味 衆生のために仏法の蔵を開いて、

広施功德宝（こうせくどくほう）

読み 広く功德の宝を施し（ひろくどくのたからをほどこし、）

意味 福德の宝をことごとく施し、

常於大衆中（じょうおだいしゅじゅう）

読み 常に大衆の中に於いて（つねにだいしゅのなかにおいて、）

意味 いつも多くの人々の中で、

説法師子吼(せっぽうししく)

読み 説法獅子吼したまう。(せっぽうししくしたまう)

意味 獅子のような気高い声で法をお説きになります。

供養一切仏(くよういっさいぶつ)

読み 一切の仏を供養し(いっさいのほとけをくようし、)

意味 すべての仏に供養し、

具足衆徳本(ぐそくしゅとくほん)

読み 諸々の徳本を具足し(もろもろのとくほんをぐそくし、)

意味 多くの福德をそなえ、

願慧悉成満(がんねしつじょうまん)

読み 願慧悉く成満して(がんねことごとくじょうまんして、)

意味 誓願と智慧をすべて満たし、

続きは次回(※経文傍訳浄土宗読誦聖典を参照しました)

[参拝案内] 総本山知恩院伝宗伝戒道場満行式とお身拭式

浄土宗の僧侶には一生に2回の籠行(おこもり)があります。

第1回目の籠行(おこもり)を伝宗伝戒道場(でんしゅうでんかいどうじょう)といいます。

お身拭式(おみぬぐいしき)とは知恩院大殿の法然上人の御像を、御門跡自ら拭かれる式です。

日時

平成19年12月25日(月)

集合場所

豊橋駅新幹線改札前

集合時間

午前7時15分

日程

午前7時29分 新幹線こだま号乗車

午前9時30分 伝宗伝戒道場満行式

午前11時 大殿日中法要

正午 昼食

午後1時 お身拭式
午後4時17分 京都駅より新幹線乗車
午後5時50分 豊橋駅着・解散

申込締切

12月20日までに、所定の申込用紙に必要事項を書いて普仙寺へ

費用

- 知恩院参拝費1000円
- 新幹線京都往復13,640円

寺行事案内

土曜礼拝 (どようらいはい)

毎週土曜日 午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 法然上人御法語拝読
3. 住職の法話

◇法然上人御法語の予定

12月9日からは

- 前編第18章 自身安穩
- 前編第19章 乗仏本願
- 前編第20章 難修観法
- 前編第21章 精進

浄焚式 (じょうぼんしき)

12月31日(日) 午後9時より

古い塔婆・位牌・お札等お焚き上げします。

除夜の鐘 (じょやのかね)

12月31日(日) 午後11時30分より

参加者は全員撞くことができます。

修正会 (しゅしょうえ)

平成19年1月1日(月) 午前8時30分～9時

年頭のお勤めです。

参拝の方には元旦朱印と招福茶を差し上げます。

住職説教 (じゅうしょくせっきょう)

平成18年1月25日(木) 午後7時～8時

この日は、浄土宗の開祖法然上人の祥月忌日です。法然上人は建暦2年(1212)の正月25日の正午、大谷の禅房(現在の知恩院勢至堂の場所)にてご往生なされました。お年は、お釈迦様と同じ80歳でした。法然上人のご生涯を普仙寺本堂に掛けた絵伝を指しながらお説教させていただきます。

法然上人の忌日法要を御忌(ぎよき)と呼びます。

普仙寺ではこの地方の習慣に倣い、月遅れでお勤めします。

平成19年は2月24日(土)午前11時～午後3時です。

月並法要 (つきなみほうよう)

平成18年1月8日(水) 午後7時より

年回忌の祥月にあたる方のご回向をいたします。

弦楽四重奏コンサート

平成19年2月23日(金) 夜6時～7時

住職加藤良光の従姉妹、成勢小夜子さんを含む4名にて弦楽四重奏のコンサートを開催します。

曲目:「ふるさと」「北国の春」「光明摂取和讃(詠唱と一緒に)」など10曲を予定。